

アフガニスタン山の学校だより 13号

第5回総会・活動報告会

(東京)11月9日(日):杉並公会堂

(大阪)11月20日(土):高槻現代劇場

参加お申し込み、お待ちしております!



摘んだ花を持つワッハーフ

暑さの厳しかった夏が終わり、秋の気配が近づいてきた。今日この頃ですが、会員の皆様はお変わりなくお過ごしでしょうか。会も5年目を迎え、会報も13号を数えるに至りました。何もわからないままのスタートでしたが、ここまで来られたのも、皆様のご支援の賜物と、心から感謝いたします。

さて、ポーランドのサフダル校長から先日、「山の学校」の新校舎の建設がいよいよ始まったと連絡がありました。国際電話のため、とぎれとぎれの会話でしたが、建設は順調に進んでいるとのこと。新校舎ができれば、小学校の全学年が教室で授業を受けられるようになりますし、併設の中学部の教室も確保できます。政府から「伝統に則って」中学は男女別々にするよう「と指示があったようですが、サフダル校長はじめ、地域の人々はあくまで男女共学を主張、その結果、政府が折れたと聞きました。人々は「これが私たちの民主主義」と鼻高々のように、その報告に私もうれしくなりました。

一方のアフガニスタン情勢ですが、アルカイダが主戦場をイラクからアフガニスタンに転じたとの報道があり、それに勢いづくようにタリバンによる自爆攻撃も激しくなっています。そうした中で、8月26日、ペンシャワール会の伊藤さんが拉致・殺害されるという痛ましい事件が起きました。アフガニスタン復興のために情熱を傾けた若者の悲しい知らせに暗然としますが、現地の人々は暗闇の中でも、懸命に光を見つけようとしていることを忘れてはいけないと思います。

治安悪化で塞がれがちな人心に新校舎建設が一陣の爽やかな風を吹き込むことを願ってやみません。

長谷洋海



前号にひきつづき、現地で収集した情報をご報告いたします。

新学年のお祝い

山の学校へは3日(木)からの二泊三日。安井さんの発案で、休日の金曜日には新学年を祝うピクニックを計画。カプールの発つ前日にビスケット、ケーキ、みかん、ジュース、紙皿を購入(180人分約2万円)して向かいました。カプールの途中、車のクラッチが故障(応急処置で済ませて後日部品交換)して予定より大幅に遅れ、到着したときにはすでに授業は終了。小雨が降るなか、全校生徒が外に出て立ったまま私たちをずっと待っていてくれました。子どもたちの元気な様子をみて安心し、挨拶をして「明日はいいことがあるから学校に来てね」と呼びかけました。

第5回公式訪問報告 パート2

【4月1日～9日】

後からは雪!、急ぎよ教室でパーティーを実施。みんなおもしろいお菓子を前に満面の笑みで、なかには二度、三度とお代わりする子も。食べ終わるとこんどは紙皿で大はしゃぎ。学校では昼食の時間はなく、お腹がすくと川の水を飲みながら家から持ってきた乾いたナンをかじる程度なので、学校の友だちがみんな揃って一緒に食べる機会はありません。この日が山の学校時代の楽しい思い出のひとつになってくれればいいなと思います。

山の学校の名簿作り

短い滞在の最終日、昨年作成した名簿を今年度用に更新する作業に安井さんの助けを借りて早速着手。転入出と進級の確認と、転入・新入生の顔写真を撮影し、名前と年齢、将来の夢を聞いていきました。転入は4名で、17名がカプールのバザラックの学校に転校しました。(ポストカード第4集の宝箱を頭にのせた男子)ムシユタバくんもバザラックに転校してしまいました(お父さんの用務員アブドラは徒歩で学校まで通勤しています)。

作業をしていて驚くことは落第生の多さ。全校生徒136名中39人もいます。一番多かったのは昨年の4年生で、27名中なんと12名。(9号表紙の口バに

乗った)アミン少年もその一人で、下の学年にいたお姉ちゃん

のナフィサ(12号号表紙)と同じクラスになりました。進級・落第は学年末テストの成績で決まり、全科目のうち4科目が不合格だと落第だそうです。先生方は一人でも多くの子が進級できるよう追試もしていますが、親が子ども

の勉強に関心がないから仕方ないといえます。実際、子どもたちは水汲みや家畜の世話、小さな弟妹の世話など、家の仕事をたくさん抱え、学校に行けない日もある

ので無理もありません。幸い、当の本人たちは気にする様子もなく、「みんなで落ちれば怖くない」とばかり、屈託なく楽しそうに通ってきています。しかし、2年続けて落第した男子の子が学校を辞めてしまった例も過去にありました。先生方に、一人一人に注意を払ってできるだけ全員が進級できるようにする努力をお願いしました。

また、今年3度目の1年生のサラームくんは耳が聞こえませんが先生もいまのところ適切な対応ができていませんが、それでも毎日休まずに登校してきます。まったく聞こえないのか補聴器をつければ聞こえるようになるのかどうか、状態がわかればそれに応じた対応も可能です。「学びたい」というサラームくんの意欲に比べ、まずは夏休みにお母さんとともにカプールの病院へ学校の車で連れて行って診察を受けさせ、今後の指導

方法を検討してもらおうように先生方をお願いしてきました。

冊購入しました。なかにはペルシャ語版『シンデレラ』も。ガラ

本に慣れ親しむ

また来年、いろいろな感想を聞かせてもらうことが楽しみです。

本に慣れ親しむ

昨年訪問時に図書

の他の報告事項

カードを新たに導入して図書活用を奨励してき

現地調達を徹底

行つてみると、返却済みの箱にはなんと276枚ものカードが

荷物の受け取りが昨年以上に厳しくなっています。寄付物資であつても送料に課税されて保管料もとられ、一箱につき数十ドルも徴収されるそうです。その

うえ、すぐに受け取りに行かないと返送されてしまいます。今後は昨年来の「渡航時に携行する以外は現地調達する」方針を徹底することになりました。

日本から届けたもの

の優等生、アタウラくんは「恐竜のとかジャングルもの」と。

長倉代表撮影の写真(約300枚)、毛糸の手袋(約200双)、新1年生用の筆箱セット(30セット)、クレヨン(12セット)。リュック

は、一昨

報告文中で触れた以外では、夜警用の毛布3枚(96ドル)とノート596冊(162ドル)。ノートは国

から一人年3冊が支給されますが、特に教科の多い高学年には

足りないため、補充しました。

ほかの子どもたちにも動物が出てくるものは大好評です。家でお母さんや兄弟たちに読んであげて

最後に、帰国して3か月後の7月に、現地から「新校舎建設着工」の知らせが届いたことをご報告いたします。

いる子もいるようです。本がうれしく、カプールの戻ることがう

文・写真／森桂子



本を借りたことのある子は? はい!

アフガニスタン山の学校の子どもたち パネル展 in 東中野(東京)

□日時 6月16日〜24日

□場所 ヒタミンTee-アートギャラリー

通勤の途中、一枚の画面に誘われるようにして入った小さなギャラリーは展示した作品をTシャツやカードに転写プリントして販売するユニークなところ。

出会ってから1か月もないうちに店主さんのご好意により無料でギャラリーをご提供いただき急ぎよ「パネル展開催の運びとなりました。」

ギャラリーいっばいに16枚の「山の学校の子どもたち」の写真が展示され、さらにそのなかの6点の写真を転写プリントしたTシャツ、トートバッグやカードも展示、販売されました。今回は初めての試みでしたが、子どもたちの笑顔がプリントされたTシャツやトートバッグは「持っている」と元気になりそう」と買っていかれた方もい



プリントをするとこんな感じです



パネル展会場

★来年もこのギャラリーでパネル展を予定しています。
★ギャラリーのご協力を得て、子どもたちの写真がプリントされたTシャツとトートバッグは今度の総会でも販売する予定です。お楽しみに！

文・写真／比留川征子

多くの人に支えられた 「あの山で出会った笑顔展」

7月5日〜27日に、以前から個人的に交流のある「タイ山岳民族子ども笑顔の会」の仲間たちと「あの山で出会った笑顔」と銘打った写真展を行った。彼らは、タイ北部の山岳民族の教育支援を担うNPOに所属している。山岳部には学校が少ないため、たった4、5歳で親元を離れて寮生活をしながら故郷から遠く離れた学校に通う子どもたちを支援している。タイとアフガニスタン……。インフラも整っていない、町から遠く離れた山岳部の村の教育支援という共通点をきっかけに、彼らとの交流を重ね、「子どもたちの笑顔」をテーマにしたコラボ写真展をやる、という目標を持ちながら、機会を探ってきた。

会場は横浜元町、正式オープン前のギャラリー「la decoration」。「笑顔の会」鈴木さんと旧知の間柄であるオーナーが、無料で貸してくださった。また、鈴木さんの先輩であるコーヒー販売会社Teo's社長のエスプレッソマシンを会場に置いてくださり、「利益は子どもたちにと大量のコーヒー豆まですべて無償でご提供くださった。一杯のコーヒーを飲むことが子どもたちの未来につながるのなら、ご来場者の多くの方がコーヒー代に大幅な上乘せをしたカンパをくださいました。」



浴衣姿のお客さまもご来場



座り込んでご鑑賞

私たちのそれぞれそのプロダクトを「ご覧になって遠く近くから駆けつけてくださったり、通りすがりにご来場されたりと、多くの方々に出会うことができた。そして今回は私の働いている会社でお世話になっている方々のご来場がなにより嬉しかった。会社ぐるみで参加するボランティアの対価として配られる地域通貨を使って、アフガニスタンの子どもたちに画材を届けたいと提案した去年以来、会社の多くの方が子どもたちの様子に関心を向けてくださるようになった。「きっかけさえあれば、深く知りたいたいと思うし、こんなふうにご来場者さんたちがつながるようで嬉しい」と言ってくれた後輩。そういう気持ちや思いに、一つ一つ丁寧に応えていくこと、掘り起していくことの大きさも実感した。

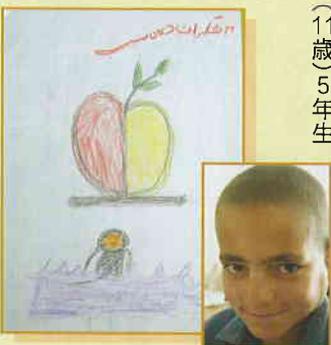
いただいたカンパを両会で折半し、当会分として4万7101円をお預かりした。去年の現地訪問以来、自分なりに発信する術を探し続けてきた1年間だったが、こんなにも多くの人に出会い、お気持ちをいただき、活動や現地の様子を知ってもらえたという意味で、大きな実りのある写真展になった。支えてくれたたくさんの方々へ感謝！

★同写真展は11月13日〜18日に東中野のヒタミンTeeでも開催予定です。

文・写真／高橋美香

ポランデの 小さな仲間たち

シユ克蘭・ティーンくん (11歳) 5年生



ソマイエちゃん (11歳) 5年生



シユワイブくん (11歳) 5年生

